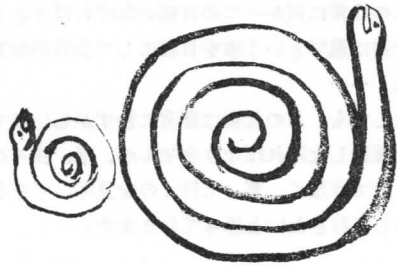


会報

THE ROTARY CLUB OF TSURUOKA

2月



松田美恵さんの絵

第392回例会

1967.2.28(火)晴

例会場 鶴岡市本町二丁目 ひさごや (2) 0707・2838番

事務所 鶴岡市馬場町十日町口 商工会議所内 (2) 5775番

EBTTER WORLD THROUGH ROTARY (ロータリーでより良き世界を)

出席報告

本日の出席	会員数	57名
	出席数	43名
	出席率	75.44%
前回の出席	前回出席率	66.67%
	修正出席数	50名
	確定出席率	87.72%

欠席者 荒明君、千葉君、林君、八丁目君、高橋君、飯白君、池内君、五十嵐(三)君、三浦君、三井(健)君、男網君、大野君、斎藤(信)君、佐藤(仁)君

スピーチ

阿部(公)君～酒田RC
安藤君、林君、金井君、阿部(襄)君、
本間君、嶺岸君、千葉君、五十嵐(三)君
佐藤(昇)君、鈴木(善)君、佐藤(寅)君
鶴岡西RC

ヒンター

栗本敏直君～鶴岡西RC

ゲスト アイリン

連絡事項

☑ 会長報告 会長 早坂源四郎君

- ① 去る26日(日)にインターアクトクラブ発会式盛大に終了致しました。委員の方大変御苦労様でし

た。

発会式にあたり会員諸君からはスマイル(¥21,500)をお願いし、又、鈴木、笹原両君からは牛乳ジュースを寄贈、或は勉強して戴き有難うございました。御礼申し上げます。

前夜懇談会にはガバナーと喜多方工業高校(会津若松)の先生2人が見えられお話し合い致しましたがその時工業の先生は『共産圏にロータリークラブのないのはどうしてか』と質問されましたが、ガバナーは『ロータリーは通信、送金、集会の自由がなければなりませんので現在のところないのです』と解答されましたが適切な答えに感心させられました。

発会式には会員(インターアクト)22名と来賓20数名遠くは鹿児島島の柴山さんがインターアクトクラブ初代会長(一橋大在学)を同伴して見えられ、又、仙台盲学校々長、福島工業高校教諭等多数御参加下さいました。

終了後この会場で懇親会を開催、来賓の兼子ガバナー安齋バスターガバナー、下田インターアクト地区委員長、柴山さんを囲んで遅くまで懇談致しました。

特に柴山さんは『インターアクトは現在の教育の盲点とも云うべき知的教育に偏した人間造りを忘れ勝ちな面を補正する大きな意義がある』ことを強調されてました。

それから発会式の時スピーチの時間を与えず申けなく思っていました片平君はロータリーについて『自分達がロータリーにひかれたのは、現代のイデオロギーを超越している点、つまり社会奉仕と云うものはイデオロギー以前のものである事を、ロータリーは持っているという事に魅力を感じた』とっていました。

それから彼は県立高校インターアクトクラブの初代会

長として非常に苦勞されたことから、こう云って居ります。『若いものは常に何か一つの目標がなければまとまらない、自分達は進学という事を目標にして会員がお互い誓い合った』……

以上考えましても、この仕事は非常にむずかしい事で色々な面から援助しなければなりません、唯、我々が育てるというのではなく、育てて行くのを見守ってやるというふうに行きたいと思っております。

❖ 発会式に参列して

・佐藤伊和治君…… 当日の交換学生アイリーンさんのスピーチには非常に感銘を受けました。後で彼女に聞いて見たら、やはり前日は午前2時頃まで一生懸命勉強して来たと言っていました。

アメリカの色々な奉仕団体について本当に細かく具体的に数多く挙げ説明されました。とにかくアメリカでは幼稚園から大学まで家庭生活の躰は勿論、社会奉仕が人間生活の一つの段階として充分訓練されるという点、印象的でした。

我が国の場合、進学の問題で一ぱい、人間はとにかく社会生活をしなければならないので、一つの高い次限から見てロータリー精神は社会生活上絶体必要なものだと考えます。

我々日本人は社会奉仕的教育は殆ど受けておらず、又受けていたとしても少ないと云う事です。社会奉仕は即ち自分の為でもあると云うことです。人間の行動に於て、これは自分の為、これは社会の為と分けて考えること事態が間違っていると思います。

便所の掃除でも廊下の掃除でも或は自分の勉強にしても一つのアートであって、一つのアートそれ自体は全部が自分自身の行動であり、どんな場合でも社会奉仕であるという事です。ロータリー傘を作るとか、盲学校に何を寄附するという様な事だけが社会奉仕ではないので自分の行動それ自体がロータリー精神と分離して考えるならば意味がないものと思います。

社会奉仕をやるのが学校の勉強と齟齬するというのは当たらないと思います。社会奉仕も出来ないものが勉強等出来る筈がないと云う日頃の考えが痛切に感じさせられました。

・斎藤栄作君…… 私は以前から鹿児島クラブとは色々おつき合いしたり、お世話になりましたので懇親会の時は夜遅くまで懇談致しました。

同行した片平君のスピーチが発会式の時出来なかったのは非常に残念でした。片平君はこんなことを云っていました。『ロータリーを知る前は、ロータリアンは特権階級のものであると思っていましたが、段々接して居る間に、やはりこの精神は特権階級のものでもなければイデオロギー的なものでもない』と云う事がつくづ

く解った』と…… この点我々のPRの足らない処だと思えます。

それからインターアクトクラブと云うものは自分が立派でないから指導出来ないと云うものではなく、良い方向にむかってお互い努力する事が最も大事だと思ってました。又、若い者の共通理念というものが必要であり、唯うわべだけで何となく集ったのではうまくゆかない。例えば進学なら進学という一つの目標を持ち、その間にお互の意志の疎通を図ってクラブの運営をやることだともいって居りました。

最後になるべく若い人(クラブ会員)を表に出すという運営が大切ではないかと思いました。

❖ 幹事報告 笹原桂一君

仮クラブ設立 高島仮RC 毎週木曜日 12.30

エビスヤ旅館

第365地区 1967年々次大会

ホスト 田辺RC 10.2(月) 10.3(火)

会報到着 東京、仙台、本荘

❖ スマイル

金井君 囲碁大会五戦全勝

佐藤昇君 住宅、照明コンクーク金勝

三井徹君 インターアクトクラブ発会式

無事終了(委員長として)

斎藤栄作君 遅刻

❖ 献立

刺身一平目、ライス・カレー